

令和6年度

事業報告書



設置者	学 校 法 人 頭 陀 寺 学 園								
幼稚園名	幼保連携型認定こども園 ずだじこども園								
理事長	鈴 木 俊 徳				園 長		鈴 木 俊 徳		
所在地	浜 松 市 南 区 恩 地 町 291 番 地								
定 員		計	0歳	1歳	2歳	満3歳	年少	年中	年長
	クラス数	13	1	1	1	1	3	3	3
	定員人数	260	6	15	15	20	60	62	82
実人員 5 月 1 日	クラス数	13	1	1	1	1	3	3	3
	1号	140				2	41	42	55
	2号	65					20	22	23
	3号	33	3	15	15				
	合計	238	3	15	15	2	61	64	78

★事業の推進

乳幼児の保育・教育には、乳幼児を取り巻く社会環境を十分に考慮し、乳幼児の保育・教育の果たす使命の認識と実践の推進を図る。教職員の各種研修会に参加し資質の向上を図り、研修事業の充実を行う。同時に園内の施設設備の安全確保と維持管理の充実を行う。

★教育事業

- ①親子を取り巻く社会状況を考慮し、保護者の子育てを支援し、家庭における子供の育つ環境を充実させるための保護者教育を行った。
 - イ) 年間を通して子育て教室（0～2歳対象）を開催した。
 - ロ) 小学校に向けて身に付けたいこと（講師：安田育代先生）
 - ハ) 親子遊び。（講師：石垣先生）
- ②教職員の資質向上のために、各種研修会に参加。園内研修においては臨床発達心理士による愛着理論、発達課題を通して同年齢、異年齢との交流を深め、人間関係を学ばせるための研修を行った。

防災防犯に備え、知識の習得、判断、行動が起こせるように研修した。

 - イ) 非常時に備え、AED、人肺蘇生法講習他を行った。
 - ロ) 交通教室を開催して、道路の歩き方、渡り方を学んだ。
 - ハ) 児童虐待防止についての研修
 - ニ) 毎月の避難訓練（火災、地震や不審者対応訓練）
 - ホ) これからの幼児教育の可能性について
- ③年間を通してお年寄り、親子、地域の人、友達との異年齢交流を行った
 - イ) 年間を通して親子の触れ合い活動を実施した。
 - ロ) SDG's 活動を通して工場見学を行った（年中・年長組）
 - ハ) 近所のおじいちゃんに招かれて、さつまいもの苗付け・収穫体験をした。
- ④子供たちが主体的に取り組むための行事を行った。
 - イ) 運動会（ずだじこども園園庭）
 - ロ) 保育発表会（SALA 音楽ホール）
 - ハ) 親子参観日（作品展）
- ⑤野菜の種蒔き・苗つけから収穫までの作業を通して、植物の一生を学ぶことにより育てることの難しさと、自然の厳しさを学んでいる。そして畑作業の大人と交流を深めている。また種、若芽を鳥から如何に守るかを学んでいる。
- ⑥年間を通して絵本を見たり、専門家の話や読み聞かせをしたりして楽しんだ。
- ⑦カウンセリングの先生を招き、毎月保護者の教育相談を行った。
- ⑧教職員の資質向上のため、教職員の園内研修、園外研修に参加した。

★施設設備事業

- ①西棟（きりん1・きりん2・きりん3・多目的教室1）の4教室の床（木製）が痛んできたため補修、ワックス掛け及び保育部廊下のワックスがけを実施した
- ②遊具の修理を行い安全管理に努めた。
- ③送迎用駐車場用地購入（恩地町 290-2） 4月
- ④西棟 防水塗装及び漏水工事 5月
- ⑤送迎用駐車場舗装工事（恩地町 296-1） 12月

★安全管理事業

- ①災害時に備え、年間を通して多様な訓練を行った。
- ②南海トラフ地震に備え飲料水・食料の補充を行った。
- ③防災防犯に備え、研修を通して安全管理に対する一層の意識を図った。
- ④自然災害に備え、教職員の防災教育・訓練を行った。

★役員変更

辞任	薬師寺晋	(評議員)	令和6年7月31日まで
就任	鈴木幸貴	(評議員)	令和6年8月1日より

学部(中期)評価

未満児	未満児の発達段階を理解し、身体を使った多くの遊びを取り入れていき、一人一人の成長に寄り添い保育教諭との基本的信頼や愛着関係を築いていくよう努力した。子どもたちにとって良い環境となるよう、話し合いを年間通じて行った。
以上児	3・4・5歳の成長過程を理解し、基本的生活習慣を身に付けていくために学年ごとに話し合いを進めていった。一人ひとりが安心して過ごせるよう、適切な言葉掛けを意識し、実行した。また自分の気持ちを素直に表現できる環境を整えた。

学年(短期)評価

0歳児	個々の子供たちの成長を的確に捉え、情緒的な表現を受け止め愛着関係の形成に努めていった。個々の関わりを大切にして家庭的な雰囲気の中で保育していった。また、保護者と連携を密に個々の成長に喜びを感じられるよう努めた。
1歳児	探索行動が増える時期であることから、安全な環境づくり、成長を促すための遊び環境を心掛けていった。安心した環境に整えていけるよう心掛けた。
2歳児 満3歳児	自我の芽生えの時期であることから、気持ちに寄り添い自分の気持ちで行動できる時間を確保した。また、保護者の中で、子供たちの成長期に不安を起こしやすい時期であることから、連絡を密にするよう心掛けた。
3歳児	子供たちが園に登園することに安心を感じられるよう、園全体で子供たちの遊びの環境を整え見守っていった。職員間での話し合いを行い、よりよい成長を促せるよう心掛けた。
4歳児	友だちと先生と一緒に夢中になれる楽しい時間を増やし、他者をつながる遊びを取り入れた。他者との関わりの中でトラブルもあったことから、様々な気持ちがあることに諭していった。チャレンジから充実感を感じられるような環境を整えた。
5歳児	自信をもって自己表現を行い、自分と友達の違いを受け止め、認め合あいながら、生活できるよう日々の生活を工夫していった。友達と一緒に過ごす楽しさ、難しさ等、様々な感情に気づき、行事を通して集団行動の大切さ伝えていった。